

「秋田県における脊髄損傷の疫学調査」へご協力をお願い

研究代表者： 工藤大輔
秋田大学医学部附属病院整形外科

研究分担者所属・氏名

所属：秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科学講座
職名：教授
氏名：島田洋一

所属：秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科学講座
職名：准教授
氏名：宮腰尚久

所属：秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科学講座
職名：講師
氏名：本郷道生

1. 研究の概要

1) 研究の意義

脊髄損傷は脊柱に外力が加わることにより、脊髄に損傷を受ける病態です。損傷部位以下の運動・知覚麻痺、膀胱直腸障害を生じ、重度の損傷では重篤な後遺症が残り、現代の医学でも完全に回復させる治療法は確立していません。これまで、脊髄損傷の受傷原因として交通事故や転落がほとんどを占めていましたが、本邦では近年、高齢者の増加とともに、転倒など軽微な外傷による脊髄損傷が増加しています。また地域別に比較すると高齢化率の高い県で中等度から軽度の頸髄損傷の割合が多い傾向にあります。これは後縦靭帯骨化症や狭い脊柱管を持つ日本人の頸椎の特徴を背景に、人口の高齢化が大きな要因となっていると考えられます。秋田県の高齢化率は平成 28 年 7 月 1 日現在、34.6%で本邦第一位となっています。秋田県においては、1989 年、1990 年に県内の各病院の多

大なるご協力のもと大規模な調査が行われ、人口百万人あたりの年間発生件数はそれぞれ 52 と 63 で、当時他県に比べ高く、受傷時年齢も 60 歳代をピークとした中高年者に多かったと報告されています。また受傷部位、原因なども詳細に報告されました。しかし、近年は同様な調査の報告がなく、現在における正確な頻度、受傷原因、重症度、急性期治療内容、患者特性などについての知見が不足しています。秋田県における脊髄損傷の疫学を調査し、その特徴を明らかにすることで、現在も高齢化が進んでいる本邦における脊髄損傷の将来予測、さらには脊髄損傷の予防と診療に有用な知見を獲得することができると考えられます。本研究の目的は秋田県における脊髄損傷の頻度、受傷原因、患者背景などについて明らかにすることです。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

秋田県内の整形外科または脳神経外科を標榜する病院で受傷後 1 週間以内に脊髄損傷と診断され、入院加療を行った方が対象です。

2) 研究期間

2012 年 1 月から 2026 年 12 月の 15 年間で予定しています。

3) 研究方法

カルテ情報から脊髄損傷で入院された方の年齢、性別、受傷部位、受傷原因、受傷日、麻痺の重症度、急性期治療内容（手術の有無、転院の有無など）を調査します。本研究では、調査のみで治療に関する介入は行いません。

4) 情報の保存

調査情報は秋田大学医学部附属病院整形外科内で厳重に取り扱います。電子情報はパスワードで保護されたコンピュータに保存され、第三者が不正アクセスを介さずに、直接被験者を識別できる情報を閲覧することはできません。

5) 情報の保護

研究に関わる関係者は、被験者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また関係者は、被験者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報

を正当な理由なく漏らすことはありません。関係者がその職を退いた後も同様です。また研究結果を公表する際は個人情報を含まないように十分配慮いたします。

6) 研究計画書および個人情報の開示

本研究にご質問がございましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて皆様に不利益が生じることはありません。

<お問い合わせ・連絡先>

所属：秋田大学医学部附属病院整形外科

氏名：工藤大輔

電話：018-884-6148 (平日 9:00～17:00)